

令和2年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490400049	事業の開始年月日	H20年8月1日
		指定年月日	H20年8月1日
法人名	株式会社 保健科学研究所		
事業所名	グループホーム 本牧つばき園		
所在地	(〒231-0823) 神奈川県横浜市中区本牧大里町24-10		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果 市町村受理日	令和3年3月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先 <https://www.reiwakaigo.co.jp/facility/tsubaki/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームな雰囲気の中で、介護をする事に力を入れています。顔見知りのスタッフと共に、季節のイベントや普段のお手伝いなどを通じて、生活リハビリに取り組んでいます。  
昨年から外出を制限される状況が続いていますが、園内で少しでもご入居者様に楽しんでもらえるイベントを企画・実施しております。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和3年2月20日	評価機関 評価決定日	令和3年3月1日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所の優れている点】</b> ◇地域社会の一員としての協力と実践 ・近隣のごみ集積場が、使用できなくなり、集積場の提供を申し出て解決に協力している。また、間門小・中学校のPTAからの依頼で「こども110番」を引き受け、子どもたちの安全に協力している。 ・現在はコロナ禍の状況にて、村の夏祭りには参加できないが、事業所の一部をお神輿の待機所として提供し、利用者は、2階の窓越しに祭りを楽しんでいる。
<b>【事業所が工夫している点】</b> ◇良質のサービス提供を目的に業務のマニュアル化を実施 ・管理者は、ベテラン職員の気づきが行き届いていることを評価しており、全職員がいつでも、同様のサービスができるよう、職員の業務改善への意見や提案をリスト化し、手順、内容をマニュアル化している。 ・清掃面でも同様、トイレやリビング、浴室など誰でもが、いつでも対応できるようにマニュアル化している。その結果、職員のモチベーションが高まり、質の良いサービスの提供、業務の効率化が可能になっている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム 本牧つばき園
ユニット名	はまなすユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の通りに地域への社会参加に努めています。その成果として町内のお祭りへの参加などに現れています。	・「地域に融合したホーム」の理念に沿って実践している。コロナ禍以前は、夏祭りや、老人会の茶話会などにも参加していた。 ・地域の懸案であったごみ集積場の設置を申し出て、解決に協力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域密着を意識して、町内会の活動に参加。お祭りでは神輿の待機所を提供。こども110番の家にも参加しています。	・町内会に加入して活動しており、老人会の「ごみひろい」活動にも自発的に参加している。 ・町内のボランティアが、紙芝居にきている。コロナ禍以前は小中学生の訪問を受け、折り紙レクでも交流していた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、情報発信しています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内にて撮影した写真をご覧いただき、雰囲気わかるようにしています。	・現在は、地域ケアプラザ担当者、家族、民生委員に書面で、入居状況、運営方針、活動報告等を伝えている。利用者家族から面会の意向を受け、1月に面会を再開したが、緊急事態宣言の為、延期となった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な訪問を行い、協力関係構築に努めています。	・区の高齢・生活支援課に月に1、2回、ケアマネジャーが訪問し、生活支援や空き室情報など、担当者と連絡をとり、協力関係を築いている。 ・区のグループホーム協議会に参加し、情報交換して交換研修を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を定期的に行い、身体的拘束の適正化に努めております。	・「身体拘束防止適正化指針」があり、これに基づき、各事業所の管理者は、年6回「適正化検討委員会」を開催し、結果を職員に報告すると共に研修を実施して「身体拘束をしないケア」に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行い、予防に努めています。		
		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を設け、活用できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	言葉を選び、じっくりと説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて頂戴したご意見は、施設内で共有し活用させて頂いています。	・家族の意見は、コロナ禍の現在、“面会の早い再開”の意見のみである。希望する家族に週1回の電話で会話の機会を設けている。 ・以前は、地域ケアプラザでの敬老会に利用者と共に家族も参加していた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議はもちろん、日々のコミュニケーションの中で情報を収集を行っています。	・月に1回、施設上の改善について職員から意見を聴いている。 ・トイレ、浴室、リビングなどの清掃の手順をマニュアル化して、作業の平準化を図っている。 ・和室の畳をフローリングにし利用者が歩きやすいようにした。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤・勤務交代時以外にもコミュニケーションをとるようにして、職場環境改善に努めています。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修を設定し、在籍職員に社内研修を受ける機会を設けています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のグループホーム連絡会や区役所が主催する連絡会などに参加する機会を設けています。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご契約する前にご本人と面談を行い、少しでも不安なくご入居できるように配慮しております。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居する際、できるだけご要望を聞き取り、不安を解消できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談の情報を現場とも共有し、ご入居初日から適切なサービスが受けられるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるだけ他人行儀にならない範囲で、家族のような親しみのあるケアを実践しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	大きなイベントの時は行事参加のお誘いしたり、面会が出来ない時も電話連絡をする機会などを設けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブなどの外出支援を行う際は、ご入居者様と馴染みのある地域を選択するなどして、可能な範囲で支援しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石川町、山下公園、金沢動物園など馴染みの場所にドライブで外出支援をし、利用者は思い出話など楽しんでいる。</li> <li>・コロナ禍以前は、友人が家族の了解を得て居室で面会をしていた。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、できるだけ交流がもてるように支援をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご連絡がある時は、可能な範囲で相談や支援などを行っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の事前情報を元に、できる範囲になってしまいますが、お手伝いさせて頂いています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の様子や意向は「利用者基本情報」やケアマネージャーの事前の聴取により把握している。</li> <li>・職員は利用者に話しかけたり、仕草で気持ちを汲み取っている。ミーティングや連絡ノートで内容を共有し、ケアへの反映に努めている。</li> </ul>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報やご本人様との会話の中から少しでも情報収集に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段からのお手伝いの中で収集した情報を、連絡ノートや月1回のユニット会議などでスタッフ一同情報共有に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議の中で日常の様子や情報を共有し、介護計画作成にしています。	介護計画は長期1年、短期半年で作成している。日々、計画書と介護記録の実施内容をリンクさせてチェックし、ケアに反映している。 ・月1回、カンファレンスを実施し、モニタリング結果を反映して、計画を見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートなどで情報共有を行い、日々のケアにも反映しています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お部屋の担当者を任命し、担当者が必要に応じて柔軟に対応できるように取り組んでいます。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会のお祭りへの参加などを行い、参加できるように支援しています。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ご入居前からのかかりつけ医への受診時の情報を提供を行っています。	・全利用者が、協力医をかかりつけ医としている。内科医と薬剤師は月2回、歯科医は必要に応じて、また看護師は、毎月訪問して利用者の健康管理に当たっている。 ・通院した場合は通院報告書を得て、関係者間で情報共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が来園の際は専用のノートを使用して、日々の様子や往診の情報を共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ADL表の提供や日々の様子などを含めて、情報提供を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と医師の面談する場を早期に提供や職員に情報を共有し、不安なく関わられる様に取り組んでいます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度化や終末期に向けての対応については、入居時に利用者と家族に説明して了解を得ている。</li> <li>・ターミナルケアに入る場合は、医師、事業所管理者、家族で今後の介護方針を打合せ、同意書を得ている。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修にて取り組んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を作成し、定期的な訓練を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練は夜間想定を含めて、年2回行っている。消防署の立ち合いを得ていたが、現在はコロナ禍で自主訓練となっている。</li> <li>・災害備蓄品は食糧3日分とリハパンなど衛生用品、ガスコンロなどを用意し、リスト管理している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内にて接遇マナー研修を行い、日々の声掛けにも気をつけています。	・「接遇マニュアル」「個人情報マニュアル」「職員間でのハラスメントの注意」を制定し、これらに基づき、社内研修を行っている。 ・利用者に対し、親しみのある言葉かけに努めているが、馴れ馴れしくならないよう注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	残存機能を失わないように、着替えの洋服を選んで頂いています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご気分が優れず入浴したくないとおっしゃった時は、時間をずらすなどの柔軟な対応を行っています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感を忘れないように、洋服選びをお手伝いしています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブルふきなど、できる範囲のお手伝いをして頂いています。 月に1回の訪問パン屋さんの時は、ご自分で食べたいパンを選んで頂いています。	・利用者の好みは、食の進み方や本人の希望を聞いて把握している。 ・塩分不足の利用者には、本人の希望を聞き佃煮で補っている。 ・コロナ禍で外出ができないため、花見は、居間に花を飾りつけ、出前の弁当で楽しんだ。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が足りないお客様にはゼリー飲料をご用意するなどのお手伝いをしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を受診する事で異常がないかのチェックと、お客様の状態に合わせた無理のない口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導のタイミングや下剤の調整を行い、できるだけご自身の力でできるように支援しています。	・利用者の排泄パターンは、水分・排泄チェック表で把握している。 ・布パン、リハパン（パット無し）のみの利用者には、声掛けと見守りの部分介助をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ水分をとっていただいたり、無理のない範囲で体操に参加して頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	できるだけお客様の好みの温度に近づけています。	・入浴は週2回とし、当日の職員配置の都合で、午前か午後に行っている。 ・職員は入浴中に、利用者と雑談、また、歌と一緒に歌ったり、思い出話をし寛いで入浴できるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋にて休んで頂く時間を設けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬情報を参照できるようにしています。また、症状の変化があった時は情報を共有し、主治医に相談できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲でお手伝いを依頼して、気分転換できるように配慮しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園庭や近所の散歩やドライブなどの外出支援を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気の良い日は、事業所周辺の散歩や、園庭での外気浴をしている。</li> <li>・初詣は、リビングに神社の飾り物を作り、職員が得てきた神社のお札を供えて、事業所内で初詣に見立てて行った。</li> </ul>	・コロナ過で外出機会が減っており、利用者の機能維持のため、更なる外出機会の工夫が望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な範囲でお買い物などの支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望のご家族様には、電話で話す機会を提供しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けを行い、季節感を失わないように配慮しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月のカレンダーは、利用者が数字を塗ったもの作って、リビングに飾っている。</li> <li>・リビングの温度は22℃を目標とし、加湿器で湿度を保つようにしているが、コロナ禍で換気が必要なため調節が難しい。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性や性格をみて、気の合う方ではできるだけ席が近くなるように配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い入れのある家具や写真などを持って来て頂いています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所が、エアコン、クローゼット、照明やカーテンを設置し、利用者は三面鏡、机、写真、本など馴染みのものを持ち込んでいる。</li> <li>・居室の清掃は、毎日午前中職員が行い、衣類の入れ替えの折、利用者と一緒に買い物に出かけている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札や案内板などを配置し、少しでもお一人で行動できるように配慮しています。		

# 目標達成計画

事業所名 グループホーム本牧つばき園

作成日 令和3年 3月 10日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		・コロナ過で外出機会が減っており、利用者の機能維持のため、更なる外出機会の工夫が望まれます。	利用者の外出機会を増やす。	・散歩の機会を増やし、下肢筋力の維持に務める。 ・月に1~2回程度の少人数での、ドライブ・レクリエーションを行います。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。